

【生薬名】茵陳蒿 *ARTEMISIAE CAPILLARIS FLOS*

【起源植物】カワラヨモギ *Artemisia Capillaris*



【科名】キク科 Compositae

【別名】河原文

【薬用部分】茵陳蒿：花穂・頭花、日本で主に使われているもの

綿茵陳：若い新芽の茎葉、中国ではこれを主に使う

茵陳蒿と綿茵陳は同様に使って差し支えない

【主成分】精油(カピリン、カピレン、ルカピレン、カピロン、カピラリン、βピネン、カピアルテシンA、B)、クモン類(カピラリシン)、  
ケマルン類(スコパロン)、フラボノイド(ゲンクワンニン、ラムノシリン、シルシネオール、シルシマレチン)

【薬性】気味は苦微寒、帰経は脾胃肝胆に属す

【効能】●清熱利湿、退黄疽

●黄疽の聖薬、1日10~20gを煎服する

●煎じる時に山梔子2~3g加えると効果的

●茵陳蒿湯や茵陳五苓散は黄疽によく使われる

●蕁麻疹、肝炎、浮腫に1日10~20gを水400mlで煎じ分3服用する

●煎液およびカピリン、カピラリシン、スコパロンに胆汁分泌促進が認められている

●肝障害改善、抗炎症、抗腫瘍、抗菌、解熱などの作用が認められている

●肝炎予防、各種の胆道疾患、胆嚢炎に利用される

●消炎性利尿

●二日酔いに茵陳五苓散は効果的、飲む前に服用すると予防にもなる

●胆石や胆道結石には茵陳10g、裏白樗12gを煎服すると石の排出に有効

●皮膚の痒みに茵陳蒿湯の煎液を飲み濃厚な煎液で患部を洗うと良い

【出典】●茵陳蒿、主治發黄也。(薬徴)

●茵陳蒿 味苦平、主風湿、寒熱、邪氣、熱結、黄疽、久服輕身、益氣、耐老。  
(神農本草經)

●茵陳(通利湿熱治諸黄) 苦燥湿。寒勝熱入足太陽經。発汗利水。以泄太陰陽明之湿熱。爲治黄疽之君薬。又治傷寒時疾。狂熱瘧瘧。頭痛頭旋。女人瘕疝。  
(本草備要)

【備考】●

【処方例】●茵陳蒿湯、茵陳五苓散

●